

気候変動適応オンラインセミナー



いきものと季節の変化を考える

市民参加モニタリングへの誘い

春になれば桜が咲いて虫たちが活動を始め、ツバメが初夏の訪れを知らせるように、いきものと季節はつながっています。このように、生物の状態が季節によって変化する現象を「生物季節」と呼びます。

近年、この生物季節に変化が起きています。その実態を調べ、将来何が起きるかを考えるために、私たち市民ができることとして「生物季節モニタリング」という活動があります。

本セミナーは、生物季節モニタリングの意義や楽しさを知ってもらうとともに、これまでのモニタリングの結果を報告します。皆様のご参加をお待ちしています！

開催日時

2024年3月5日(火) 13:00～15:00

申込（要事前申込、定員100名）

3月4日（月）**〆切**

[申込URL] www.reallygreatsite.com

[お問合せ] 事務局（日本エヌ・ユー・エス株式会社）
tohoku-adaptation@janus.co.jp/03-4567-6225
（櫻木）



お申し込みはQRコードからが便利です。

気候変動適応オンラインセミナー

プログラム

13:00 オープニング

13:05 基調講演「気候変動のキホン・“がんばらない” 気楽なモニタリングへのお誘い」

東京都立大学 大澤剛士氏

13:35 報告「だれでもできる！SNSをつかって生物季節モニタリング」
事務局

14:00 報告「市民と連携した生物季節観測-生物季節モニタリング-」
国立環境研究所 辻本翔平氏

14:25 話題提供「白神山地はおもしろいブナの森」
弘前大学 山岸洋貴氏

15:00 クロージング

登壇者プロフィール

東京都立大学 都市環境科学
研究科

准教授 大澤剛士

専門は生物多様性情報学等。生物多様性は生態系サービスの重要な源泉になっています。これら自然資源を適切に管理、保全し、持続的な利用を実現するための研究をしています。フィールドは小笠原をはじめとする自然公園から身近な緑地、農地、河川と非常に多岐に渡ります。分野にこだわらず、情報科学、地理学、農学、環境科学等、様々な分野の方と連携し、基礎科学としても応用科学としても面白い研究を目指しています。



国立環境研究所
気候変動適応センター

特別研究員 辻本翔平

生物季節観測に係るプログラムに従事しています。気象庁の生物季節データを活用して、自然群集（同じ場所で一緒に生育している植物）や生物に対する気候変動影響の評価に関する研究を行っています。専門は送粉生態学（花に集まる昆虫）。送粉昆虫に関するテーマなら個体行動レベルから群集レベルまで興味の対象は幅広いです。現在は都市景観と送粉系に関する研究に注力しています。



弘前大学 農学生命科学部附
属白神自然環境研究センター
准教授 山岸 洋貴

専門は野生植物の生態学。主に青森県に生育している野生植物について、どんな種類の植物が、どのくらい、どのように暮らしているのかを調べています。人々の暮らしが豊かになる一方で、数を減らしている植物や逆に増えている植物達がいます。植物達の移り変わりの原因を明らかにすることで豊かな自然を次の世代へ引きつぐためにはどうしたらいいのか皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



主催：気候変動適応東北広域協議会（事務局 環境省東北地方環境事務所）

【個人情報の取り扱いについて】

お預かりした個人情報は、本セミナーの参加受付のために利用させていただきます。集計作業等のために他に預託することはありません。また、お預かりした個人情報は、日本エヌ・ユー・エス株式会社の「個人情報の取り扱いについて」(<https://www.janus.co.jp/about/policy/>)に従って適切に取り扱います。